



## Monthly Report

### ～住友信託の経済・市場情報～

#### Contents

#### ● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
- ✓ 投資環境(国内)
- ✓ 投資環境(海外)
- ✓ 投資環境(為替)
- ✓ 主要ベンチマークの推移

#### ● 見通し

- ✓ 内外経済
- ✓ 国内資産・海外資産・為替

#### ● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・アジアのGDP成長率
- ✓ 今月のトピックス



SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行



---

## ● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
  - ✓ 投資環境(国内)
  - ✓ 投資環境(海外)
  - ✓ 投資環境(為替)
  - ✓ 主要ベンチマークの推移
-

# 経済・市場振り返り ～10月の主な経済指標・ニュース(国内)～

月日	国内
10月1日	9月の日銀短観は、企業の景況感を示す業況判断指数(DI)が大企業製造業でマイナス33となり、6月の前回調査(マイナス48)から15ポイント改善。改善は6月に続き2期連続。
10月2日	8月の完全失業率は5.5%と、前月に比べて0.2ポイント低下。失業率の低下は7ヶ月ぶり。
10月7日	8月の景気動向指数によると、景気の現状を示す一致指数は91.4となり、前月比1.6ポイント上昇。5ヶ月連続の改善で、03年10月以来の大幅な伸びを記録した。
10月8日	9月の景気ウォッチャー調査によると、現状判断指数は43.1と前月比1.4ポイント上昇。上昇は2ヶ月ぶり。
10月9日	8月の機械受注統計によると、「船舶・電力を除く民需」は前月比0.5%増と2ヶ月連続プラス。
10月14日	9月の企業物価指数は前年同月比7.9%低下。低下率は統計開始以降で最大であった8月(8.5%低下)から縮小。
10月22日	9月の貿易統計では、輸出額が前年同月比30.7%減。12ヶ月連続で前年を下回った。輸入額は前年同月比36.9%減となった。
10月29日	9月の鉱工業生産指数は前月比1.4%増。前月比で7ヶ月連続上昇。
10月30日	9月の全国消費者物価指数(生鮮食品除くベース)は前年同月比2.3%低下。7ヶ月連続で前年同月を下回った。
	9月の完全失業率は5.3%と、前月比で0.2ポイント改善。9月の有効求人倍率も前月比0.01ポイント高い0.43倍に上昇。失業率の改善は2ヶ月連続。
	4-9月の新設住宅着工戸数は前年同期比33.9%減。9月の新設住宅着工戸数は前年同月比37%減と、10ヶ月連続して前年割れ。

## Note

### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 経済・市場振り返り ～10月の主な経済指標・ニュース(海外)～

月日	海外
10月2日	9月の米雇用統計によると、失業率は9.8%となり前月比0.1ポイント上昇。非農業部門雇用者数は26万3000人減、8月(20万1000人減、改定値)より減少幅が拡大。
10月5日	9月のISM非製造業景気指数は50.6と、前月の50.9から低下。
10月6日	オーストラリア準備銀行が政策金利を0.25%引き上げ
10月14日	9月の米小売売上高は前月比1.5%減少。前月の水準を下回るのは2ヶ月ぶり。除く自動車は0.5%増。 9月の輸入物価指数は前月比0.1%上昇。石油価格の下落が指数全体を押し下げた。
10月15日	9月の米消費者物価指数は前月比0.2%上昇。コア指数も0.2%上昇。 10月のニューヨーク連銀景気指数は34.6と、前月の18.9から上昇。 10月の米フィラデルフィア連銀景気指数は11.5と、前月(14.1)から2.6ポイント低下。
10月16日	9月の米鉱工業生産指数は前月比0.7%増。前月比のプラスは3ヶ月連続。9月の設備稼働率は70.5%と、前月の69.9%から改善。 10月のミシガン大学消費者信頼感指数は69.4と、前月の73.5から低下。 9月の米消費者物価指数は前月比0.2%上昇。コア指数も0.2%上昇。
10月20日	9月の米卸売物価指数は前月比0.6%下落。コアも0.1%下落。 9月の住宅着工件数は前月比0.5%増加。2ヶ月ぶりに前月比プラスとなった。
10月22日	9月の米景気先行指数は前月比1.0%上昇。前月水準を上回ったのは6ヶ月連続。
10月23日	9月の米中古住宅販売件数は前月比9.4%増。8月に5ヶ月ぶりに減少したが、政府の住宅ローン減税を下支えに再び増加に転じた。
10月27日	8月のケース・シラー住宅価格指数は前月比1.0%上昇。3ヶ月連続のプラス。 10月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は47.7と、前月の改定値53.4から低下。2ヶ月連続で前月を下回った。
10月28日	9月の耐久財受注額は前月比1.0%増。前月の2.6%減から2ヶ月ぶりにプラスに転じた。 9月の新築住宅販売件数は前月の改定値に比べ3.6%減。
10月29日	7-9月期の米実質GDPは前期比年率3.5%増。5四半期ぶりにプラス成長に回復。
10月30日	9月の米個人支出は0.5%減と5ヶ月ぶりに減少。8月に終了した政府による自動車買い替え支援策の効果が薄れたため。 10月のミシガン大学消費者信頼感指数は70.6と、前月の73.5から低下。

## Multi-Product & Investment Counseling

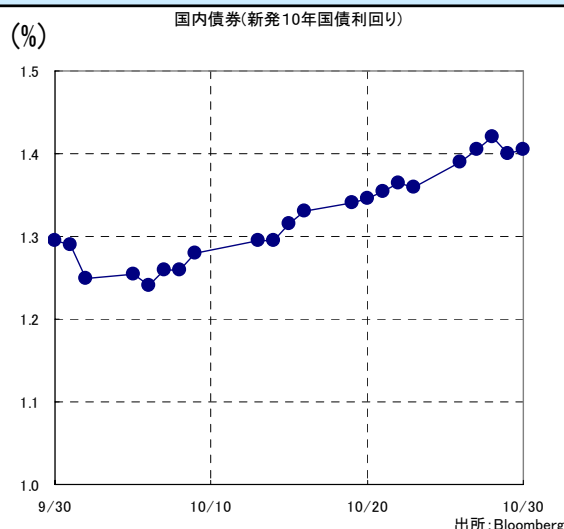
本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 経済・市場振り返り ～投資環境(国内)～

市場インデックスの推移	09/03月	09/08月	09/09月	09/10月	前月比	前年度末比
NOMURA-BPI総合	316.24	320.02	321.10	319.78	- 0.41%	+ 1.12%
新発10年国債利回り(%)	1.34	1.31	1.30	1.41	-	-
日興CBインデックス(総合)	538.78	610.39	593.61	597.17	+ 0.60%	+ 10.84%
東証株価指数(配当込み)	945.72	1,179.85	1,119.67	1,101.04	- 1.66%	+ 16.42%
日経平均株価	8,109.53	10,492.53	10,133.23	10,034.74	- 0.97%	+ 23.74%

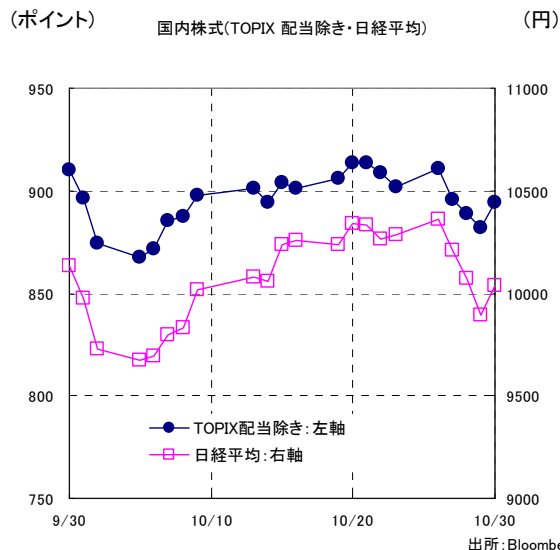
## 国内債券

10月の国内長期金利は概ね上昇基調で推移しました。上旬は、米国経済の先行きに対する懸念から国内株式は下落し、長期金利は低下して始まりました。その後、オーストラリア準備銀行による利上げ発表や国内株式の上昇を受けて、長期金利は上昇に転じました。中旬は、米企業の7-9月期決算が好調であったことから、長期金利は上昇しました。なお、13-14日に開催された金融政策決定会合で日銀が社債・CP買い入れ停止を見送ったことは市場に織り込み済みであり、影響はありませんでした。下旬は、民主党政権の財政運営に対する不安から国債の需給悪化懸念が高まり、長期金利は上昇しました。結局、国内長期金利は1.41%(前月比+0.11%)で月末を迎えました。



## 国内株式

10月の国内株式市場は2ヶ月連続の下落となりました。上旬は、円高の企業業績への影響や、米国景気の先行きに対する懸念から下落して始まりましたが、その後は、米企業の業績改善や円高ドル安の一服、堅調なアジア株式市場が好感されて回復しました。中旬は、海外株式市場が堅調に推移したことや、米企業の7-9月期決算が好調であったことが好感されて、上昇基調を維持しました。下旬は、民主党政権の先行き不透明感、米国の消費回復に対する懸念、海外株式市場が軟調に推移したことなどが嫌気されて、軟調に推移しました。月末には、米GDPが5四半期ぶりにプラスとなったことが好感されて反発しました。結局、TOPIXは894.67(前月比-1.67%)、日経平均株価は10,034.74円(同-0.97%)で月末を迎えました。



## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

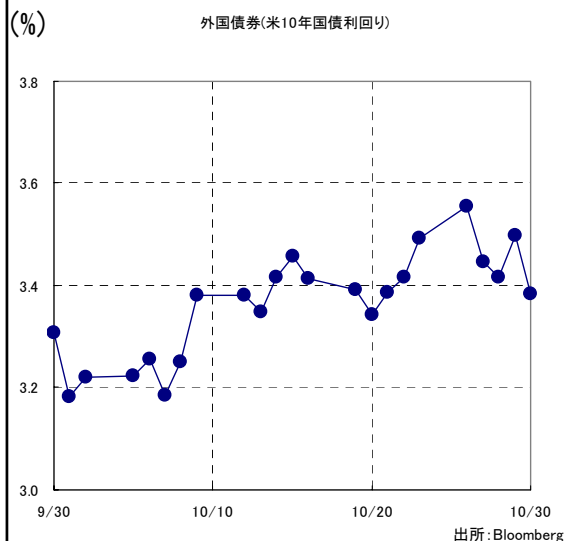
# 経済・市場振り返り ～投資環境(海外)～

市場インデックスの推移	09/03月	09/08月	09/09月	09/10月	前月比	前年度末比
Citigroup世界国債(円ベース、日本除き)	313.82	316.69	310.49	316.40	+ 1.90%	+ 0.82%
米国10年国債利回り(%)	2.67	3.40	3.31	3.39	-	-
MSCI世界株式インデックス(円ベース)	804.54	1,037.06	1,048.12	1,041.90	- 0.59%	+ 29.50%
ニューヨークダウ(工業株30種)	7,608.92	9,496.28	9,712.28	9,712.73	+ 0.00%	+ 27.65%
ナスダック総合指数	1,528.59	2,009.06	2,122.42	2,045.11	- 3.64%	+ 33.79%

## 米国債券

10月の米国長期金利は概ね上昇基調で推移しました。

上旬は、9月のISM製造業景気指数や雇用統計が市場予想を下回ったことから長期金利は低下して始まりましたが、その後、企業業績の改善期待の高まり、オーストラリア準備銀行による利上げ発表等を受けて、長期金利は上昇しました。中旬は、9月の小売売上高や鉱工業生産等の経済指標が市場予想を上回ったこと、企業の決算が好調であったことから金利は上昇しましたが、住宅関連指標が弱い内容となったことから低下に転じました。下旬は、中旬に引き続き決算が好調であったことから金利は上昇する局面もありましたが、月末にかけて10月の消費者信頼感指数が市場予想を下回ったことや米商業銀行大手CITグループの破綻懸念が浮上したことを受けて、低下しました。結局、米国長期金利は3.39%(前月比+0.08%)で月末を迎えました。

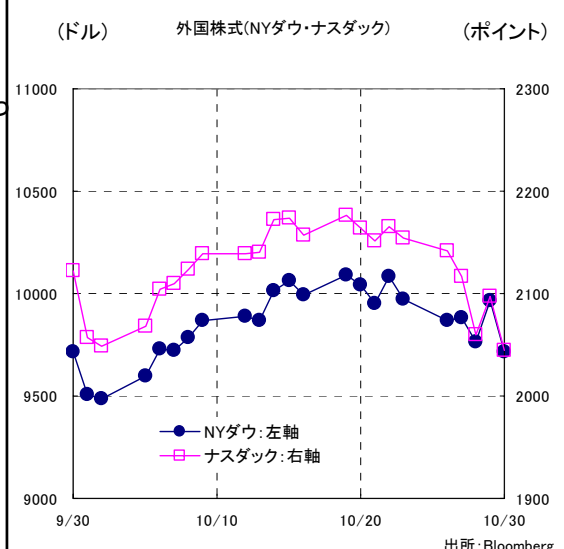


## 米国株式

10月の米国株式市場は、NYダウは横ばい、ナスダックは8ヶ月ぶりの下落となりました。

上旬は、ISM製造業景気指数や雇用統計が市場予想を下回ったことを受けて下落して始まりましたが、その後は、非鉄大手の7-9月期決算が市場予想を上回ったことや、小売の既存店売上の回復などが好感されて回復しました。中旬は、企業の7-9月期決算が市場予想を上回る内容が相次いだことが好感されて、上昇基調を維持しました。下旬は、住宅関連指標の一部に改善が見られたものの今後は政策効果が剥落するとの見方が強いことや、消費関連指標が市場予想を下回ったことなどが嫌気され、利益確定売りに押される展開となりました。

結局、NYダウは、9,712.73ドル(前月比+0.00%)、ナスダックは2,045.11(同-3.64%)で月末を迎えました。



## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



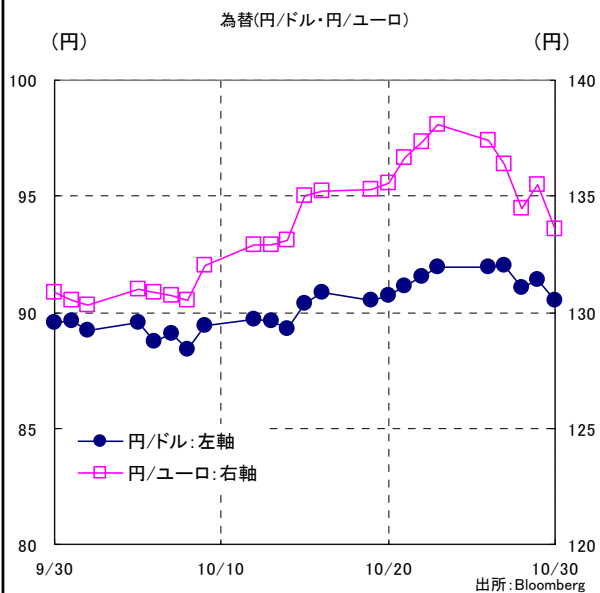
# 経済・市場振り返り ～投資環境(為替)～

市場インデックスの推移	09/03月	09/08月	09/09月	09/10月	前月比	前年度末比
円/ドル相場(ロンドン16時)	98.77	92.77	89.54	90.52	+ 1.10%	- 8.35%
円/ユーロ相場(ロンドン16時)	131.14	133.12	130.87	133.56	+ 2.05%	+ 1.84%

## 為替

10月の円/ドル相場は89円台半ばで始まり、上旬は緩やかな円高基調で推移しましたが、中旬以降は円安基調に転じました。上旬は、国内株式の下落から投資家のリスク回避姿勢が強まり、緩やかに円高基調で推移しました。中旬は、世界景気の回復見通しを受けて、円安・ドル高で推移しました。下旬は、米国長期金利の上昇から日米の金利格差が意識されて円売り・ドル買いが進みましたが、米国長期金利が低下に転じると金利差縮小から円買い・ドル売りが進みました。結局、円/ドル相場は90.52円(前月比+0.99円)で月末を迎えました。

円/ユーロ相場は130円台半ばで始まり、上旬から中旬にかけて世界景気の回復見通しから、円安・ユーロ高で推移しました。月末には、株式相場が軟調となり、円高・ユーロ安で推移しました。結局、円/ユーロ相場は133.56円(前月比+2.69円)で月末を迎えました。

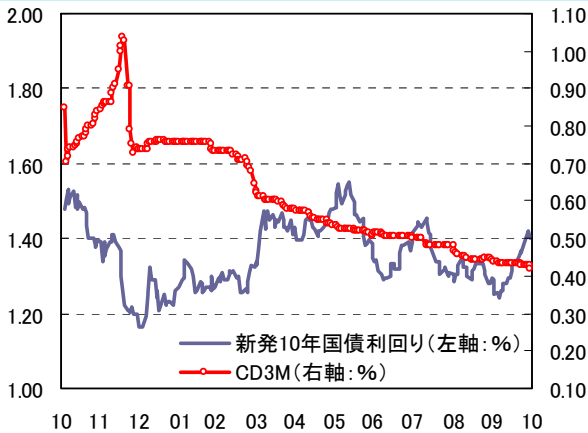


## Note

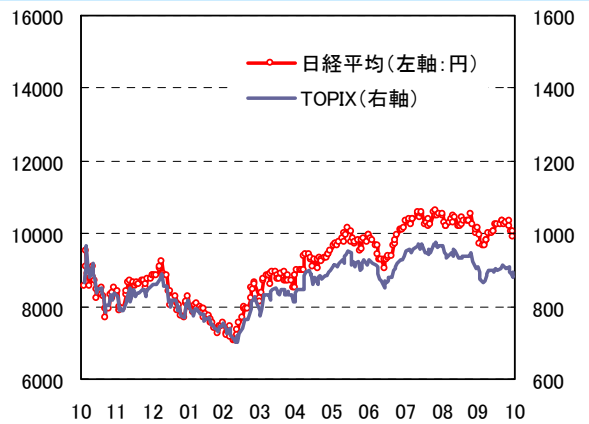
### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

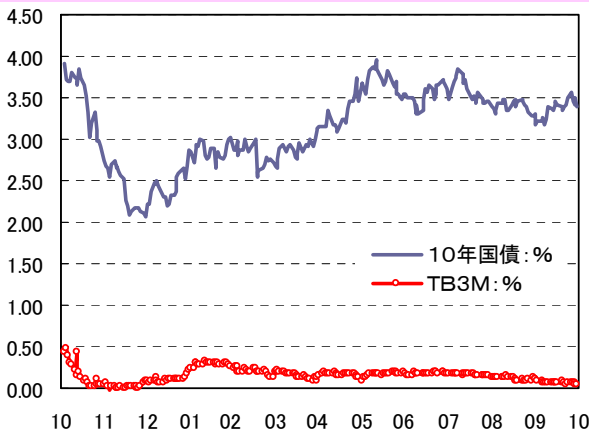
### 国内債券市場の推移



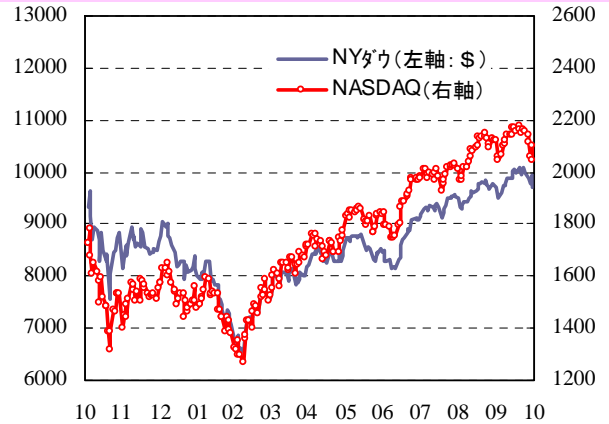
### 国内株式市場の推移



### 米国債券市場の推移



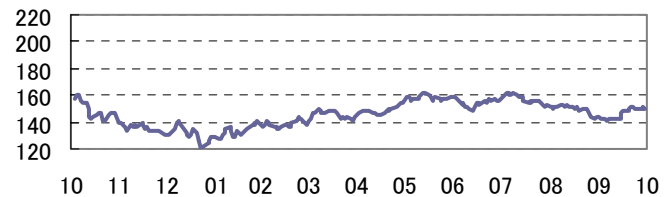
### 米国株式市場の推移



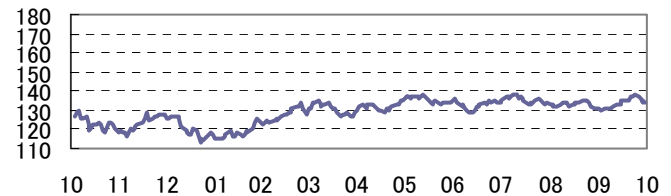
### 円/ドル相場の推移(単位:円)



### 円/ポンド相場(単位:円)



### 円/ユーロ相場(単位:円)



出所: Bloomberg

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。





---

## ● 見通し

- ✓内外経済
  - ✓国内資産・海外資産・為替
-

# 内外経済

## 国内景気

<企業部門>在庫調整の進展と世界経済の底入れに伴う輸出の持ち直しによって生産は回復基調で推移し、企業マインドは緩やかな改善を継続すると予想します。しかしながら、依然として設備稼働率は低く、過剰感が残るため、設備投資が上向きには時間を要すると予想します。

<家計部門>消費の先行きには、子供手当などの政策効果が期待されるものの、目先は雇用の過剰感の高止まりなどから雇用・所得環境の悪化が暫く続くものと想定します。したがって、景気対策効果の剥落懸念を抱えながら、横ばいから減速気味に推移すると予想します。

## 金融・財政政策

日銀は、景気は持ち直し方向にあると認識する一方で、依然として下振れリスクが大きいと認識していることや大幅な需給ギャップを背景にデフレ懸念も高まっていることから、金融緩和政策を維持すると予想します。

## 米国景気

<企業部門>外需の底入れや在庫調整の進展から生産の持ち直し傾向が続き、企業マインドは良好な水準を維持すると予想します。一方、最終需要の見通しには依然として不透明感が残ることや設備稼働率が低水準にとどまることから、設備投資は盛り上がりには欠けると予想します。商業用不動産の価格動向にも留意します。

<家計部門>住宅価格の安定化や株高による資産効果等が消費マインドを下支えしている状況ですが、雇用・所得環境の悪化や家計のバランスシート調整圧力から個人消費には大きな期待は出来ない状況です。クリスマス商戦は、不透明感が残るものの対前年比ではプラスを見込んでいます。

## 金融・財政政策

FRBは、経済・金融環境の回復がより鮮明になれば非伝統的政策の出口戦略に踏み込むことを想定します。一方、失業率の上昇が続くなど景気が脆弱である間は、現行の政策を維持すると予想します。

## Note

### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 国内資産・海外資産・為替

## 国内債券

景気底入れが金利上昇要因となりますが、需給ギャップの大幅な拡大により物価低下傾向が長期化する可能性があることや、足元の円高も金利低下要因になることからレンジ内での推移を想定します。

【2010年3月末予想値 新発10年国債 1.3-1.5%】

## 国内株式

在庫調整の進展や世界的な景気対策効果により景気見通しの上方修正が株価の下支え要因になるものの、円高により輸出企業を中心に企業業績への懸念が生じやすいことから上値が抑制される展開を想定します。政権移行期であることも不透明感を強めている一因であり留意が必要です。

【2010年3月末予想値 TOPIX(配当除) 880-980】

## 米国債券

景気底入れは金利上昇要因であるものの、需給ギャップの存在からインフレ圧力は限定されレンジ内での推移を予想します。金融緩和政策は長期化する見通しですが、出口戦略への思惑に左右されやすい展開を想定します。

【2010年3月末予想値 米10年国債 3.2-3.6%】

## 米国株式

景気の持ち直しや成長見通しの上方修正が続く間は堅調に推移すると予想します。しかしながら、底入れ後の景気は緩慢な回復にとどまることや業績の上方修正はある程度織り込まれている可能性が高まっていることから、高値警戒感の台頭とともに上値は抑制され、自律調整を交えた動きとなることを想定します。

【2010年3月末予想値 米S&P 1,000-1,100】

## 為替

<ドル/円>米国の財政赤字拡大やドル金利の低下等によりドル安圧力が残りやすいものの、日米とも政策金利は当面据え置かれる見通しであり、金利格差は拡大しづらく、政策当局の発言に影響を受けつつも当面はレンジで推移すると予想します。

<ユーロ/円>ドル安圧力や域内景気底入れ観測がユーロを下支えすると予想します。景気底入れを評価した後は、相対的な景況感格差やユーロ高を牽制する発言に左右される動きを想定します。

【2010年3月末予想値 円/ドル 87-97円、円/ユーロ 127-140円】

Note

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



---

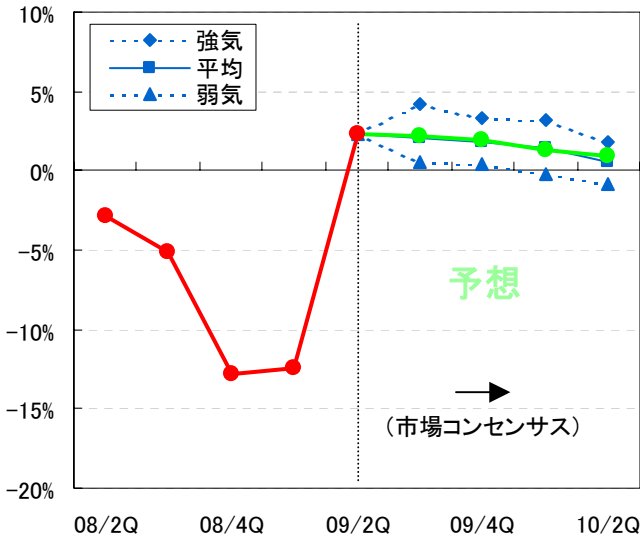
## ● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・中国のGDP成長率
  - ✓ 今月のトピックス
-

# マクロピックス① ～日本・米国・アジアのGDP成長率～

## 日本

日本: 実質GDP成長率(前期比年率%)



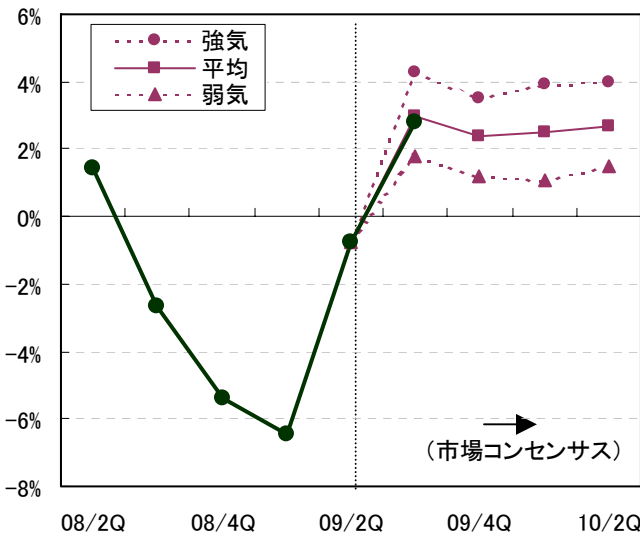
出所: 内閣府(実績値のみ)、社団法人 経済企画協会

11/16に発表予定の日本の実質GDPは2四半期連続でプラス成長を見込んでいます(弊社予想は前期比年率+2.2%)。輸出が引き続き成長を牽引し、内需もエコカー減税やエコポイント制度などの経済対策が個人消費を押し上げると予想します。

\* 予想は弊社作成

## 米国

米国: 実質GDP成長率(前期比年率%)



出所: 米国商務省、ブルーチップ

7-9月期の米国のGDP速報値は、前期比年率+3.5%と5四半期ぶりにプラス成長となり、景気の底入れを示唆しました。政策効果から個人消費(同+3.4%)と住宅投資(同+23.4%)が全体の成長を押し上げました。

### Note

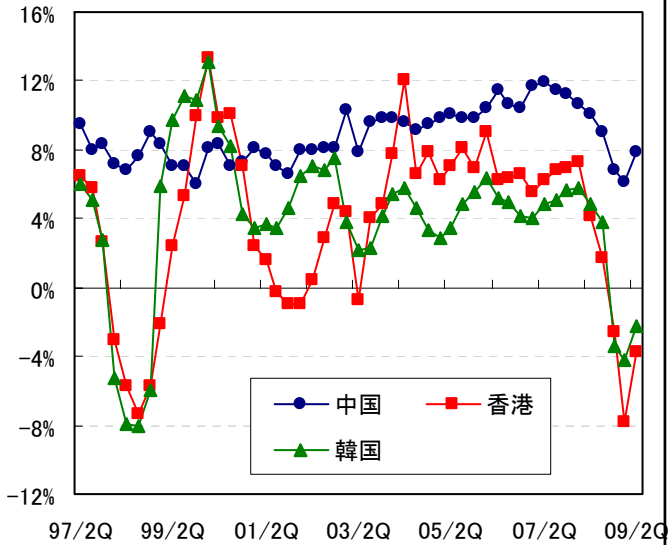
### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# マクロピックス① ～日本・米国・アジアのGDP成長率～

## アジア

アジア実質GDP成長率(前年比%)



出所: 中国国統計局・香港統計局・韓国銀行

7-9月期の韓国のGDP速報値は、前年同期比+0.6%と内外需ともに堅調で、1年ぶりにプラスに転じました。ウォン安、景気対策効果から輸出、設備投資が大きくプラスに寄与しました。

7-9月期の中国のGDP速報値は、前年同期比+8.9%と成長が加速しました。外需が成長を押し下げましたが、景気対策効果により内需(消費・投資)が牽引しました。

## Note

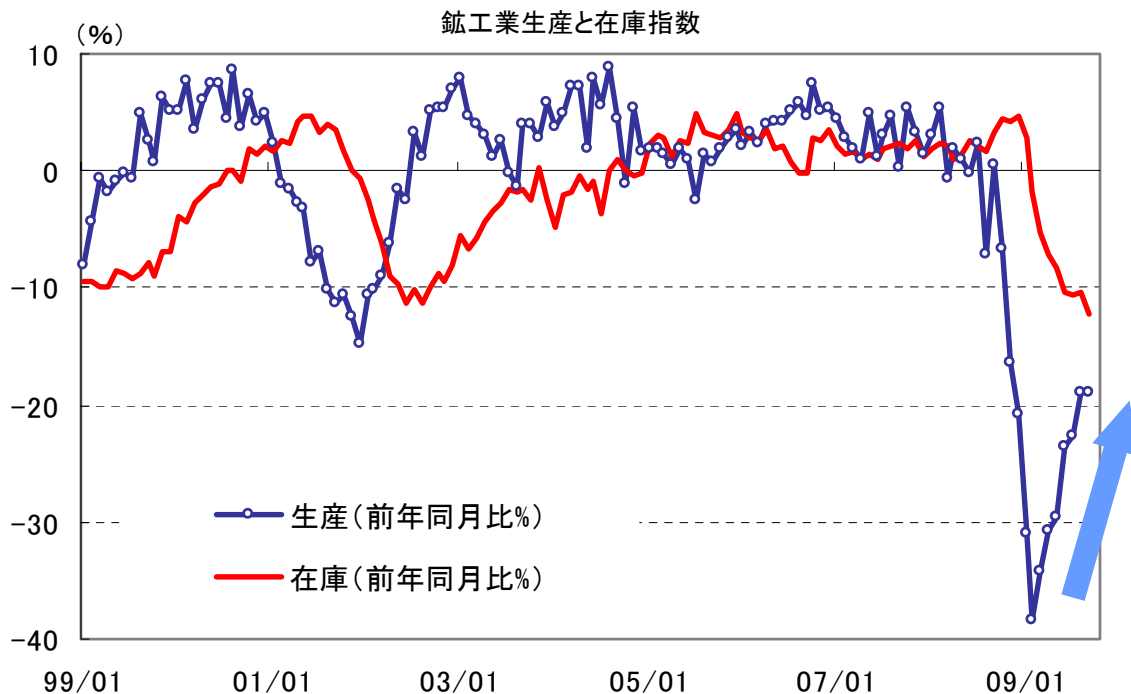
### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



# マクロピックス② ～今月のトピックス～

## ①日本：鉱工業生産は増勢を維持するか



9月の日本の鉱工業生産指数は輸出の持ち直しを背景に前月比+1.4%と7ヶ月連続の上昇となりました。

在庫も前年比▲12.2%と前月より減少幅を拡大するなど、在庫調整に進展がみられました。

各国の景気対策効果の息切れが懸念されることに加えて、民需の回復も在庫調整の進展によるリバウンドの動きが一巡した後は力強さを欠くことなどから、改善テンポは緩やかになっていくものと予想します。

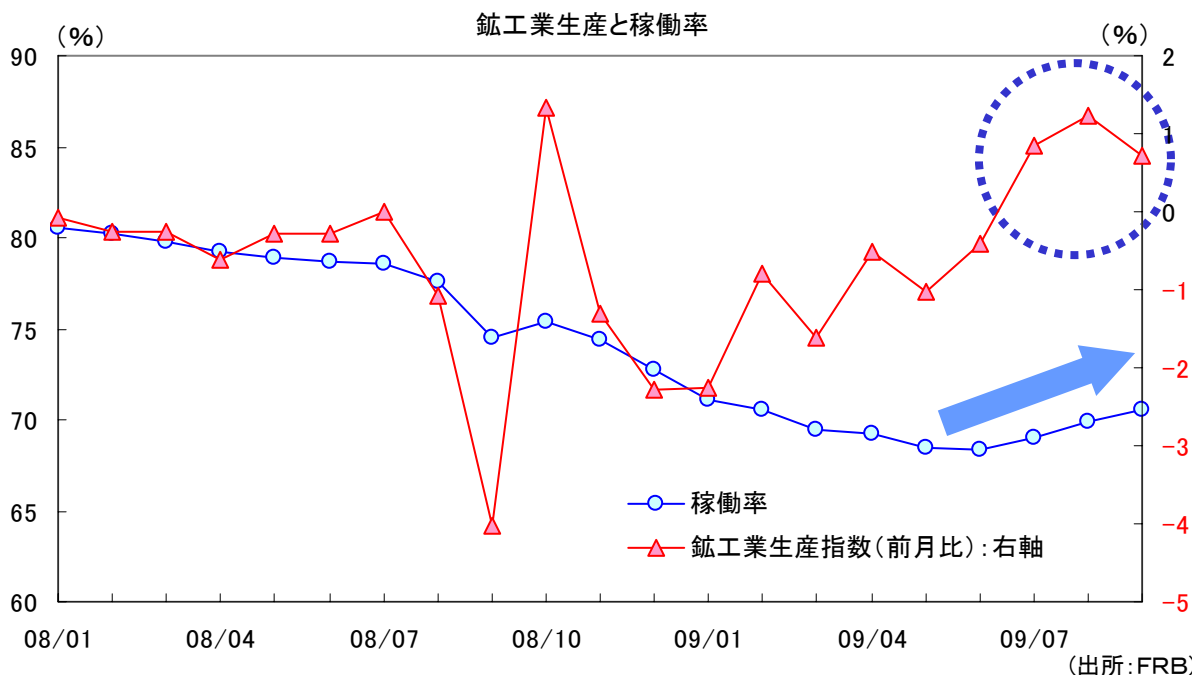
### Note

### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# マクロピックス② ～今月のトピックス～

## ②米国：設備投資の先行き



9月の米国鉱工業生産指数は前月比+0.7%と、市場予想(同+0.2%)を上回り、3ヶ月連続で増加しました。これにより、第3四半期の鉱工業生産は前期比年率+5.2%となり、2005年第1四半期以降最大の伸びを記録しました。

また、9月の設備稼働率は70.5%と、依然、低水準ながらも3ヶ月連続で回復を続けております。

政府が実施した自動車買い替え支援策は8月末に終了していますが、その支援策の影響は継続すると予想します。

### Note

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

### Multi-Product & Investment Counseling



本資料は、お客様の運用戦略や投資判断等の参考となる情報の提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。

シミュレーションやバックテスト等のデータ、運用実績やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、データの一部は、弊社が信頼できると判断した各種情報源から入手した情報等に基づくものですが、その情報の正確性・確実性について弊社が保証するものではありません。なお、本資料は、作成日において入手可能な情報等に基づいて作成したものであり、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます。

本資料に関わる一切の権利は、他社資料等の引用部分を除き住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。

本資料の内容に関して疑問に思われる点、ご不明な点等がございましたら、弊社営業担当店部等にご照会下さいますようお願い申し上げます。